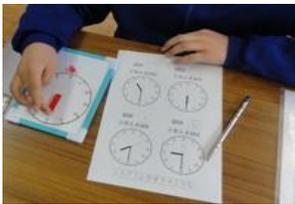


教材・教具の登録

領域・教科	数学	教材名	「とけいのもけい(時計の模型)」
指導目標	アナログ時計で正確な時刻と前後の時間を読み取ることができる。		
教材のねらい	見やすさ, 使いやすさ, 作りやすさ		
教材の画像	教材の材料・作り方		
	<p>教材の材料・作り方</p> <p>〈材料〉 ピッチン, 模造紙, 色厚紙, 強力磁石, マグネット</p> <p>〈あると便利な道具〉 分度器, 定規(50cmさし)</p> <p>〈作り方〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ①模造紙に直径40cmくらいの円と文字盤を描く。 ※分度器で30度ずつ測る。 ②模造紙にピッチンを貼り付ける。 ※ホワイトボードマーカーで書き込めるようになる。 ③短針と長針の厚紙に強力磁石を付ける。 ※強力磁石だと動かしても中心からズレにくい。 ④文字・数字カードを作る。 ※ほかに「○時間後・前」や「○時まで あと○時間」など。 		
使用の様子	教材の使い方		
  <p>↑卓上用の模型も作ってみた。</p> <p>←複数あると便利。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①手立てとして, 1分刻みの数字を円の外周にホワイトボードマーカーで書き込める。 ②時間の経過を意識させるために2つ以上準備して, 基準となる時計と実際に針を動かす時計とに分けて考えることができる。 ③長針と短針は連動しないので, 実際のアナログ時計の針を位置も意識するとよい。 		
教材の有効性			
<p>安価で誰でも簡単に作ることができるのが最大の目玉である。</p> <p>市販の物は, 長針と短針が連動して高性能だが, 価格や大きさを考えるとイマイチである。本物を使うことも考えたが, 文字盤を見ながら生徒が針を動かすために断念した。</p> <p>実際に, 授業で使用してしばらくすると, 1分刻みの時刻が読めるようになった生徒もいる。</p> <p>また, プリント学習「○時間前(後)は何時でしょう?」の導入で使用すると, 「○時間前は, 針が戻る」「○時間後は, 針が進む」のイメージが持てるようになった。</p> <p>現在では, 「○時まで あと○時間」などの内容にも生徒たちは取り組んでいる。今後は, 「○時まで あと○分」や時刻表を題材にした学習にも発展できていけたらと考えている。</p>			